

PPS樹脂成形で国内トップ。時代を先取りして高精度の成形ノウハウを蓄積し、先端を走り続ける

金属並の強度を持ちながら、熱に強く、軽量、そして安価。軽量化、低コスト化を目的に自動車業界をはじめ潜在需要があった一方、成形が極めて困難なPPS（ポリフェニレンスルファイド。スーパーエンプラの1つ）。「世界中のどこに行ってもPPSと言う材料名が出たときに、日本に“みやま”がある!」と言われる企業になる。PPSが広く浸透する以前からこの目標を掲げて高精度な金型作りと成形ノウハウを蓄積し、2007年にはPPS樹脂成形で国内トップを達成。

所在地	長野県茅野市ちの176-5	設立	1947年
電話/FAX	0266-72-3178/0266-73-5473	資本金	4,000万円
URL	http://www.miyama-gr.co.jp/company/	従業員数	65人
代表者	代表取締役社長 百瀬 真希		



不断の新技术の追究による付加価値創造と顧客の課題解決。燃料電池自動車にも採用

簡易かつ小型の製品についてはインサート成形によって高精度で付加価値の高い製品を提供してきたが、近年さらに軽量化、複雑形状化、一体加工化が求められている。同社ではPPS樹脂部品と金属部品の一体加工による高精度アウトサート加工に取組んで技術を確立。近年ではエンドユーザーとの共同開発により燃料電池自動車に搭載された。同社は大型・肉厚PPS樹脂部品に対応できる設備や技術を保有し、約2,000gまでの高機能樹脂が成形できる。



高温樹脂対応射出成形機

樹脂成形設計技術を活用し、地域中小企業の技術を結集した新製品開発

医療機器会社からのポータブル型トイレ開発の依頼があり、同社が中心となって諏訪圏の中小企業13社が技術を持ち寄り製品化に至った。ここから製造協力ネットワークを形成、地域の中小企業群が協力し合うことでアイデア段階の相談から製造まで一貫した製品開発を可能とし、樹脂成形を設計からできる同社の強みを生かした新たな事業展開になっている。同社は主幹として調整を行い、アイデアはあっても製品の製造知識や開発能力がない地域企業の製品化実現を支援し、地域の産業創出にもつながっている。



製造協力ネットワーク

社員一丸となった業務改善による標準化・問題解決・利益向上

5S活動をベースに社員が率先してリーダーとなり提案と実践を実施。「みやまビジョンマップ」を作成して、目標を営業計画まで落とし込んでいる。「仕事・情報・物」の見える化を徹底して不良削減・コストダウン、作業の効率化を実現し、利益拡大につなげている。加えてノウハウの標準化と部門間の共有を推進している。環境活動への取組として、本来業務の改善がCO₂削減につながることを明確にし、部門ごとに業務改善を実施している。全従業員がSDGs個人目標を設定し、達成に向けて取り組んでいる。



5S活動例 食堂床修繕